

地域医療研修報告書No. 16

所属：国立国際医療研究センター 研修医

研修先：佐川町立高北国民健康保険病院

仁淀川町国民健康保険大崎診療所

今回私は平成29年3月の1か月間、佐川町立国民健康保険病院と仁淀川町国民健康保険大崎診療所で地域医療研修をさせていただきました。

高北病院のある佐川町は高知県の中西部に位置している人口約13000人の自然の多い町で、高齢化率は約36%と全国平均の26.7%を大きく上回っており、高北病院は公立病院として佐川町の医療の中核を担っています。急性期の医療だけでなくそれに続く亜急性期、退院に向けてリハビリや栄養指導を含めた回復期の医療などもありました。またデイサービス、デイケア、訪問診療、訪問看護などの退院後も継続して行う医療・介護福祉についても併設しており、地域に密着していることから介護・福祉施設などとの連携もスムーズにとれていると感じました。

指導医の浦口先生は専門科の少ない地域の病院の内科で何でも診なければいけないからこそ救急疾患を見逃さないこと、そのためにも画像を読む力が大切であると教えてくださいました。私の病院では専門科が多く他科に相談することが可能でしたが、地域の病院では幅広い知識を持つことが求められます。実際、先生が一枚のレントゲンから読み取る情報の量は多く、非常に勉強になりました。最新のアメリカの医療雑誌を読み、幅広い知識を常にアップデートしている先生に出会えて刺激を受けました。

4日間研修させていただいた大崎診療所は仁淀川町にあり、仁淀ブルーで有名な仁淀川が診療所の横を流れていました。佐川町よりさらに四国山地に近く、高齢化率も約53%と非常に高いところでした。しかし外来をみていると80歳代、90歳代でも元気な方も多く、健康寿命が長い印象でした。所長の沖先生は100キロマラソンにも出られているようなパワフルな先生で、1人で大崎診療所で診療されています。高齢でありなかなか診療所に来ることのできない患者さんに対しては全国的に訪問診療の重要性が謳われるよりも昔から自宅に訪問しているとのことであり、地域住民の方々は感謝の言葉を述べられていました。だんだん診療所に外来通院するのがしんどくなってきた、という90歳を超えた患者さんに対して沖先生が「しんどいんやったら私が行くから無理せんでええよ」と優しく声をかけていらっしやっただのが印象的でした。

地域ではその病院、診療所で対応できる状態か、転院させなければならない状態かの判断をしなければならないことがあり、高知ではドクターヘリの運用も盛んになってきているということでハード面が充実し専門施設に送るまでの時間はかなり短縮されています。その点、都会と医療の質としては大きく変わらないものの、病院や診療所へのアクセスがなければ専門施設に送る判断さえもなされないことになってしまいます。それは避けるべ

きであり、これから高齢者が多くなっていく地域ではハード面の充実だけでなくソフト面でも支えていかなければならないと感じました。

私が高知での地域研修を志望した理由は行ったことのない四国に行ってみたかったからという安易な理由でしたが高知の方々は皆さん温かい方ばかりで楽しく1か月を過ごすことができました。

最後になりましたが浦口先生をはじめとした高北病院の方々、沖先生をはじめとした大崎診療所の方々、高知医療再生機構の方々、そして地域住民の方々にはこのような貴重な機会を与えていただいたことを心より御礼申し上げます。